

平成 27 年 3 月 3 日

高島伝承地を歩く会・最終報告書

丸谷憲二

先史古代研究会の古代吉備探訪として「高島伝承地を歩く会」が予定通り完結致しました。要点を報告します。

『岡山県神社誌』に記録されている高島神社 3 箇所訪問を計画しました。

3 箇所訪問に岡崎春樹会員の著書『吉備に邪馬台国』の吉備高島邑久説を追加しました。

高島伝承地を歩く会	
① 笠岡高島史跡探訪	
平成 23 年 7 月 30 日	下見 7 名参加
平成 23 年 11 月 20 日	10 名参加
② 岡山市四御神界限探訪	
平成 25 年 2 月 11 日	名参加
③ 吉備高島邑久説探訪	岡崎春樹説 著書『吉備に邪馬台国』の贈呈有
平成 26 年 2 月 11 日	16 名参加
平成 26 年 3 月 5 日	6 名参加(片山伸栄さん一行を案内)
④ 児島高島探訪	
平成 27 年 2 月 11 日	22 名参加

探訪報告要点

1 きび考第 4 号 2011 年（平成 23 年） 7 月発行

探訪前の地名学による文献調査結果として丸谷憲二は、『吉備（黄蕨）国・高嶋宮伝承の解析』で水戸光圀説と世良長造説の笠岡市**神島神社説**を正しいと報告しています。

2 きび考第 5 号 2012 年（平成 24 年） 2 月発行

① 笠岡高島遺跡 探訪紀行 山崎泰二

② 笠岡市高島 河田浩次氏所蔵 耳形柄頭長剣調査報告 丸谷憲二

3 平成 26 年 3 月 27 日(木) 岡山市立山南公民館 郷土史を楽しむ会にて講演

『太伯と邪馬台国 「倭人は太伯の子孫説」の紹介』 丸谷憲二

平成 26 年 6 月 19 日 例会報告 丸谷憲二

『太伯と邪馬台国 「倭人は太伯の子孫説」 邪馬台国吉備説論戦参戦』ブログ公開中

児島高島探訪は多くの収穫がありました。これから報告書を纏めていきます。

説明

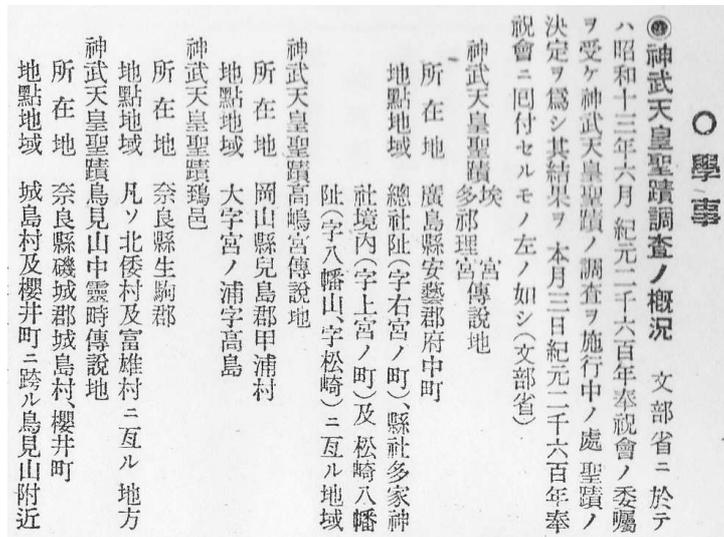
高島伝承地については、岡山県では永山卯三郎氏の 15 説が知られています。

しかし、全国では 2 説のみです。

① 源（水戸）光圀修『大日本史』の校注に「高嶋宮 今の備中国小田郡高嶋の王泊の地、其の旧址 な

りと云う」とあります。『大日本史』は水戸光圀死後の正徳 5 年（1715）の藩主綱條による命名です。「本朝史記」・「国史（倭史）」とも呼ばれています。

- ② 昭和 15 年 文部省指定「神武天皇聖蹟伝説地」説
（昭和 15 年 5 月 6 日(月) 官報 第 3996 号)



参考文献

- 『岡山県通史 上編』永山卯三郎 昭和 37 年 P150～P155
第四章 神武創業と吉備
- 『続岡山県金石史』永山卯三郎 昭和 29 年刊 P556～P557
「437」2207 天文十六年霜月十五日 神島興与大明神練札 (略説)

神武天皇吉備高島御聖蹟と称するもの三備に十五箇所ある。

その中で一面的根拠と主張を有し殆ど同一程度の伝説地が五箇所ある。

それは備前国神名帳に見える上道郡と、東児島と

延喜式神名牒に見える西児島と小田郡と沼隈とである。

而して是等五箇所も全面的公正妥当のものではない。

斯くて我々一千有余年来御聖蹟を繞りて甲論乙駁の紛争を繰返して来た。

高島が高千穂・樞原と我が建国史上の三大史蹟で、特に神武天皇天下平定の根拠地、八紘一字発祥の地として一層の重大性を有することは日本紀の明文に燦として明かである。

○ 高島聖跡と伝ふるもの十五箇所

上道郡高島村竜ノ口山、同郡可知村芥子山、児島郡小串村阿津、同郡甲浦村宮浦、同村高島、本庄村塩生高島、粒江村田槌神社、下津井町田之浦、田土浦坐神社、小田郡神島外村神島神社、神島外村高島、沼隈郡水呑村、同郡田尻村、同郡田島村、同郡柳津宮、同郡高須村大字宮、大元神社

○ 一面的根拠と主張を有し殆ど同一程度の伝説地五箇所左の如し。

- ① 上道郡高島神社、高島大明神＝高島神社 正三位高島大明神
（総社本、八日市本、西大寺本、金剛寺本 (備前国神名帳所蔵)
- ② 児島郡竹島神社、竹島明神又云竹島大明神 (東児島) ……

竹島神社 従五上竹島明神、正四位竹島大明神（備前国神名帳所蔵）

③ 児島郡田土浦座神社、田土浦坐竹島神社（西児島）……

田土浦坐神社（延喜式ノ所蔵）

④ 小田郡神島神社、神島高島神社、興与大明神……

神島神社（延喜式ノ所蔵）

⑤ 沼隈郡、高諸（たかもろ）・高渚（たかす）・高州（たかす）・高島 今高須 村大字宮、 大元神社 高諸神社（延喜式ノ所蔵）

以上は当代の地理、交通、歴史学、考古学、遺跡、遺物乃至古今一千有余年に亘る関係文献四百余种の実証する所である。（拙著、吉備国高島宮参照）